Q 自動体外式除細動器（AED）の設置は

A 学校施設を中心に設置を進める

鈴木（すずき） 満（みつる）議員

議員　日本国内において、年間数万人の方々が心臓突然死で亡くなっていると言われています。

その多くは、「心室細動」という不整脈によるものです。

これに対する最も効果的とされている治療法が除細動器（AEDを含む）の利用です。

このことからAEDの町内小・中・高校の設置状況と他の施設の設置状況及び今後の設置予定はあるのか。

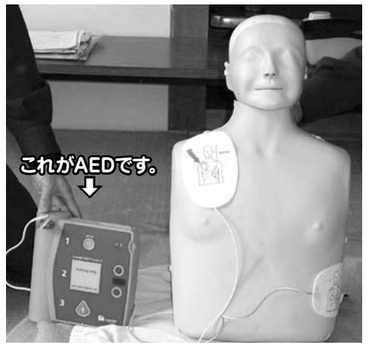
町長　本町における設置状況ですが、小・中・高校については、葛巻高校に1台のみの設置です。その他の施設は、次の表のとおりとなっています。

AED設置箇所

- アットホームくずまき
- グリーンテージ
- 葛巻高校
- 高砂荘
- 葛巻分署
- 社会体育館
- 西島医院
- 葛巻病院
- 総合センター
- 交流館プラトー

（順不同）

また、今後の設置予定については、町民の皆さんが安心できる保健医療の環境整備を図るうえで、AEDの設置とその普及は有効かつ必要な対策と考えており、医療機関と連携を図りながら学校施設を中心に設置を進めます。



※操作は、AEDの音声にしたがい電極が心臓をはさむように2枚を貼り付けて「電気ショック」

Q AEDの使い方どう伝えるのか

議員　使用法が解らないのでは不幸な事態になるので、AEDの設置を進めると同時に、機器に対する知識や使用法を広く町民に講習していく必要がある。

その進め方についてどのように考えているのか。

A 分署と連携し講習会を開催

課長　葛巻分署と連携しながら消防団員、婦人消防協力隊を中心にすでに講習会を重ねている。

また、自治会、婦人会、PTA、職場などに講習会を提案し進めてきているがさらに取り組みを拡大し、AEDに対する知識や理解を深め、使える人を増やしていきたい。

1月9日、議員も救命講習を受講

一口メモ▼心室細動とは、心臓の筋肉がけいれんし、ポンプとして血液を送り出せない危険な状態です。「いのち」が助かる率は1分を経過するごとに約一割ずつ低下すると言われて、電気ショックで細動を取り除くことが必要です。

柴田（しばた） 勇雄（いさお）議員

Q 常勤医師確保対策は

A 関係者の支援で最善を尽くす

議員　葛巻病院の経営状況など四項目について伺います。

①中期計画の達成見通しは

②常勤医師の勤務実態は

③常勤医師の確保対策は

④待ち時間の解消は

町長　①今年度の経営状況について、医業損益は昨年度に比べ521万円改善し、純損益も同比475万円の改善になっています。決算見込みは、医業収支において若干の改善が図られるものと見込んでいます。

また、今後の経営計画については、3ヵ年を期間として策定した中期経営計画により、事業を推進していますが、昨年末、国から示された公立病院改革ガイドライン等を踏まえ、現在の中期経営計画を元にさらに検討を加え、「公立病院改革プラン」を策定し、運営にあたることとしています。

クリスマス会で入院患者さんへ歌のプレゼント

②内科、外科の常勤医師各1人に、岩手医大、県立中央病院及び岩手愛児会からの外来診療の応援のうち毎週が8人、隔週が1人、このほか平日の宿直に毎週、月、火、木曜日及び隔週水曜日に1人、土、日の日当直に月平均4人が交替で当たっていただく応援体制となっています。

常勤医師の宿日直の負担は大きく、健康保持のため時間外においては呼び出さない体制と、水曜日午後の外来を休診とさせていただいています。

③全国自治体病院協議会、県及び国保連等をはじめ多くの関係者の支援を得ながら交渉に当たっています。今後も医師確保に向け最善を尽くします。

④医師確保に努めながら当面の対策として受診の平準化の推進や通院バスの調整を検討します。

Q 介護施設への待機者対策は

議員　介護施設への入所待機者の状況と対策について及び今後の介護施設整備の考えは。

A 増床は保険料の増額に住民理解が大事慎重に

町長　特別養護老人ホーム高砂荘の待機者は49人、介護老人保健施設アットホームくずまきは3人、介護療養型医療施設の葛巻病院には8人がそれぞれ待機しています。

待機者の解消策のひとつとして施設整備等サービス量の拡大があげられます。

現在、第四期介護保険計画を策定中ですが、特養、老健など指定介護保険施設の増床は、介護保険料の増額に繋がることから、サービス量と被保険者負担とのバランスをどうとるか、住民の理解が得られるよう慎重に進めています。

被保険者が要介護状態になった場合においても、可能な限り、その居宅において、自立した日常生活を営むことができるように配慮した、介護保険法の趣旨に沿って運営します。